

3-10 大学情報化職員基礎講習会

本講習会は、職員が情報技術を活用して教育支援に積極的に関与し得るよう、日常業務の情報化をはじめ意思決定支援のための情報システムの構築と活用、コミュニケーションやプレゼンテーション手段としてのWebサイトの活用など情報化の意義を理解し、大学職員の資質向上に寄与することを目的して開催するものである。なお、講習会の企画・実施・運営は、研修運営委員会にて対応した。

(1)開催要項の決定と実施準備

職員が教育支援に関与することの必要性に重点をおくため、全体会において大学での事例をもとに、職員が教員と協同して教育改善に取り組むことを共通理解する場を設けることとした。その上で、まず、全員に「大学情報化の意義」を講義し、情報化を進める上での留意点や考え方など、以後に続く講義の前提知識を企画した。それを受けて、「推進組織・体制」、「環境整備の在り方」、「情報資源の取り扱い」の視点から、職員に期待される業務への取り組み方を講義することとした。

平成15年度大学情報化職員基礎講習会開催要項

1. 講習会の目的

この講習会は、職員が情報技術を活用して教育支援に積極的に関与し得るよう、日常業務の情報化をはじめ意思決定支援のための情報システムの構築と活用、コミュニケーションやプレゼンテーション手段としてのWebサイトの活用など、初心者を対象にテキストなどにより分かり易く講習を行い、大学改革・業務改革を支える情報化の意義を理解し、大学職員の資質向上に寄与することを目的とします。

2. 受講対象者

加盟大学・短期大学の職員で、情報技術を活用した業務の情報化と教育支援に関する基礎知識の修得を希望する方。主に新人職員を対象としています。

3. 講習内容

教育研究の改革を推進するために必要な大学の情報化について、その意義、組織・体制、基盤環境整備、情報の取り扱い方などの基礎的な知識について、主として講義形式で学習します。パソコン等による個人学習は行いません。

また、講師は研修運営委員会が選出したこの分野で経験豊富な私立大学の管理職相当の方が担当します。

【講義】 ※講習内容は変更することがあります。

- (1) 大学情報化の意義 (2) 情報化推進のための組織・体制
(3) 情報環境基盤整備のあり方 (4) 大学における情報資源の取り扱い

【特別講義】「教材支援に関する情報の取り扱い」

4. 事例紹介

大学・短期大学における今後の情報技術活用のあり方について理解を深めるため、会員大学による事例紹介を行います。

5. 日程・会場

日程：平成15年7月8日(火)～10日(水)

会場：京都産業大学（受付：神山ホール）

〔全体会概要〕

テーマ：「社会の期待に応えるために、今、大学は何をするべきか？」

平成16年度より大学は、教育・研究活動全般に亘り、第三者評価機関の評価を受けることが法律で義務づけられるようになる。そのためには、事前に自己点検・自己評価を学内で行うことが前提とされてくる。これからの大学は、自らの責任において大学が掲げる人材の養成、とりわけ社会の中で主体的に行動できる自立型の人間教育を標榜するようになると思われる。

それには、大学は、責任をもってひとりひとりの学生に自己実現の能力が備わるようように、あらゆる工夫を駆使して、学生の希望に即した学習支援や学園生活の支援を的確に行うことが重要であり、学生個人を主体にした大学の支援システムが必要となってくる。そのように考えると、学生に関わる全ての情報（入学時の学力、履修・成績情報、学習相談情報、進路希望情報、資格取得情報、学園生活情報、課外活動情報など）を個人別にデータベース化し、教職員が学生個人情報と踏まえて常時学生とコミュニケーションをとり、相談・助言を行うなどの情報システムが必要不可欠になってくる。このような状況から、大学でのITを活用した学生支援の役割はますます高まることになろう。

全体会では、テーマ別の講習を受ける前に、これからの大学が果たすべき役割や職員の役割について共通理解を持つために、上記のような視点から、職員が果たすべき教育・学習支援のあり方をIT活用の側面から考える場を提供することにした。

(2) 開催結果と次年度開催計画の検討

参加者は、108大学、5短期大学の総勢221名と昨年度より若干ではあるが増加した。開催結果の詳細は資料編【資料13】を参照されたい。

全体会は、運営委員会による研修の趣旨説明と参加者との質疑応答としたこともあり、直截的な説明で非常に分かりやすいと好評であった。各講義の内容については、アンケート結果から、一部の講義で内容の絞り込みが必要との指摘もあり、次年度に向け内容の精査を続けていくこととした。

次年度の企画にあたっては、人的交流の機会が提供できるよう、合宿形式の研修に戻す予定である。また、講義内容の関連性、講師の説明について事前に入念な準備が必要とのことから、運営委員会にて講義の予行を徹底することにした。講義のテーマは、意識改革の重要性が理解できるようプログラムを工夫することとしている。

